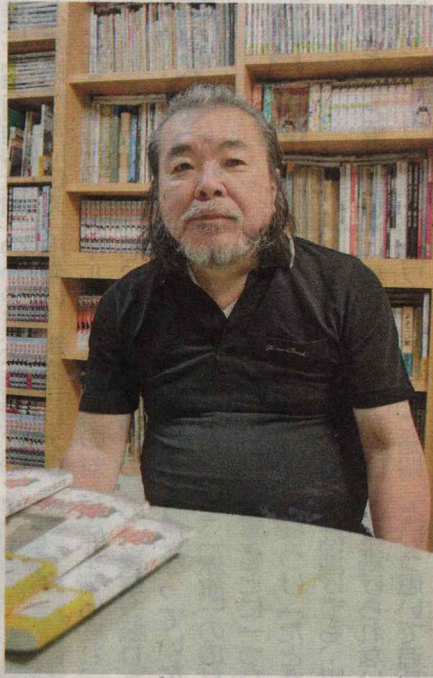


ひと

マグロの被害者実験水爆ニキ
漫画にした物語漁船員口



和気 一作さん (64)

青年漫画誌の連載『女帝』などがベストセラーになった高知県在住の漫画家。米国のビキニ水爆実験（1954年）で被ばくしたマグロ漁船員たちを描いた『放射線を浴びたX年後』を漫画にした。南海放送の伊東英朗さんが書いた同名の本を読み、衝撃を受けました。胃がんのため46歳の若さで他界し

があります」

小学5年生で漫画同人誌を出すなど「勉強より絵を描くのが大好き」でした。父親に反対されました。

が、漫画家を目指すため、大阪のデザイン学校に。19歳のとき作画デビューするも、危篤になった父親のため、高知に戻ります。『土佐の一本釣り』で有名な青柳裕介のアシスタントをしている時、東京からきた編集者に見いだされました。父親が室戸の漁師仲間

に、「息子が漫画家をめざしている」とうれしそうに話していることを後年に聞き、ホッとしたとも。

ネットで漫画が売れる時代が、コロナ禍のなか加速しています。ほのほのとしたSF作品をコツコツ書きためている日々。漫画家としての挑戦を続けます。

文・写真 阿部 活士